

2024年7月吉日
世界自動車調査月報編集長 安藤 久史

2023年部品売上高ランキング、電池・半導体の好調や合併/事業再編目立つ

さて、当社では『FOURIN 世界自動車調査月報』2024年7月号(2024年7月10日発刊)にて、「2023年部品売上高ランキング」をテーマとしたレポートを取りまとめましたので、ご案内を申し上げます。

- 世界部品売上高上位130社をドル換算で比較。首位はBosch、2位はZF、3位はデンソー
- 部品不足解消でOEMの自動車生産が上向いたことから全体的に増収傾向
- ドル換算により、ドル安一段落でユーロ圏のサプライヤーが増収傾向となった一方、円安トレンドで日系は減収も
- BEVシフトなど業界の構造転換に向けて組織改革やM&Aなど活発化

FOURINが独自に世界主要サプライヤーの自動車部品事業売上高をドル換算で集計したところ、2023年(度)は全体的に増収となる傾向を示しました。2020年後半から継続していた部品不足が、2023年央までに世界各地で解消に向かったことで、自動車生産が上向いたことが増収要因となりました。各期末の為替相場をベースとしたドル換算により、2022年の対ドル安が一段落したユーロ圏のサプライヤーは増収傾向が顕著であったものの、円安トレンドが継続した日系は、ドル換算では減収となる傾向が浮き彫りとなっています。またBEVシフトなど業界で進む構造転換に向けて、組織構造の改革や事業の整理を進めていることから、M&Aや分社化を通じた業界再編が売上高順位に影響を与えている状況も窺えました。

売上高をみると、Boschが前年比10.2%増の621億ドルで首位を維持しました。前年3位のZFが同11.0%増の474億ドルとなり2位に浮上。3位デンソーは、本国通貨(日本円)では同11.6%増となったものの、ドル換算では同2.1%減の472億ドルとなり、順位を一つ落としました。4位は現代Mobis、5位はCATL、6位はMagnaと続きました。

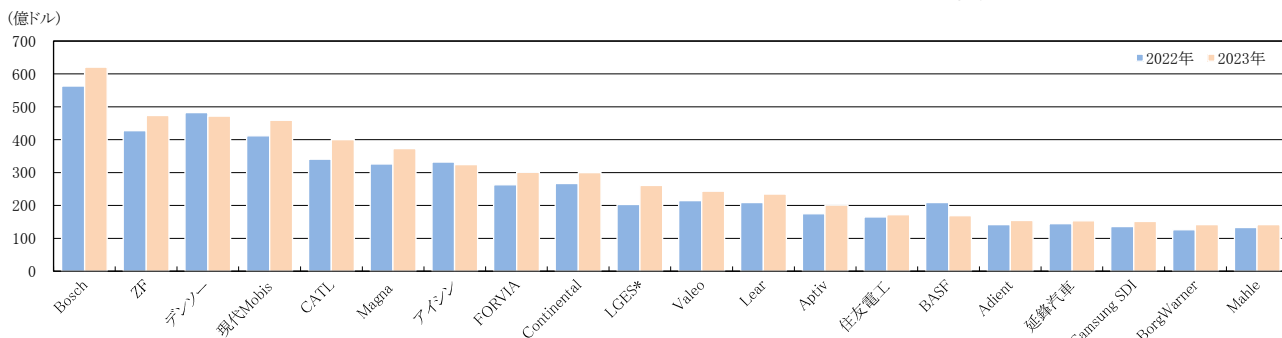
2023年は、前年に引き続き、車載バッテリーと半導体関連のサプライヤーの売上高の伸び幅が特に高い傾向にありました。前年13位のLG Energy Solution(同28.7%増)が10位に浮上。SK On(同65.3%増)は前年55位から32位、パワー半導体生産のInfineon Technologies(同36.5%増)は51位から36位、STMicroelectronics(同31.5%増)は56位から41位に躍進しています。

ご参考までに、『FOURIN 世界自動車調査月報』2024年7月号に掲載しますグラフを下記に紹介いたしました。

当プレスリリース内容に関してのご不明な点やご質問は、『FOURIN 世界自動車調査月報』編集長の安藤(TEL:052-789-1143、FAX:052-789-0966、E-mail:h.ando@fourin.com)までご連絡ください。

敬 具

【世界自動車部品メーカー、売上高別上位企業(2022/2023年実績値、ドル換算)】



注)タイヤ、車両組立が売上の大半を占める企業は除外(Continentalはタイヤ事業分、Magnaは車両組立事業の売上を除外した)。自動車・二輪車の部品売上高を対象としたが、一部で一般産業向けを含む。決算月は各社異なる。為替レートは各決算月末の仲値レートを採用。* LG Energy Solution (各社財務資料、各種報道よりFOURIN作成)